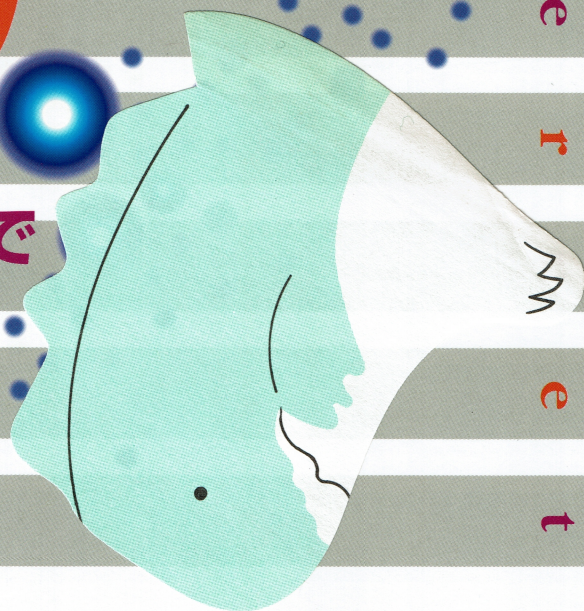


教育技術
MOOK

よくわかる! インターネット活用 国際交流のための ガイドブック

初歩的手順から
実践校のアドバイスまで



小学館

実践事例 小学校特別編

神奈川県横浜市立
本町小学校教諭
出口和生



平和教育がテーマの国際交流を求めて 「青い目の人形」プロジェクト進行中

——この実践のポイント——

- ①数年後の本格的な国際交流をめざして、インターネットを活用して国内基盤を確立。
- ②交流テーマに最適な「青い目の人間」の発掘。

1. よみがえれ 青い目の人形

(1) 交流のねらい

このプロジェクトは、一言で言うと、「全国に残る青い目の人形をインターネットでつなぎ、世界平和を考えよう！」というものです。

しかし、青い目の人形（次項にて詳述）自体が日本全国で約280体しかなく、しかもその中で現在、インターネット接続がされている学校や公的施設にあるものは、ほんの数体に過ぎません。したがって、ここで報告するものは、数年がかりのプロジェクトのスタートにあたるものです。

こうした報告が契機となり、数年後に全国の青い目の人形保存校が中心となって、「インターネットを活用した国際交流」はもとより、「インターネット上で世界平和をアピールする運動」へと発展していくことを願っています。

(2) 青い目の人形について

「青い目の人形」とは、1927年にギューリック1世が日米友好のために働きかけ、アメリカ合衆国から日本の小学校などに贈られた人形のことを言います。また、渋沢栄一さんを中心として、答礼人形と呼ばれる市松人形58体がアメリ

かに贈られています。しかし、当時は「日米親善の象徴」だった人形が、太平洋戦争のころには「敵国の人形」として、かなりの数が処分されてしまいました。約12000体が贈られましたが、現存数は約280体ほどしか確認されていません。

終戦後、昭和の終わりまでの間に、隠されていた人形たちが発見されるたびに、NHKテレビで放映されたり、武田英子さんの書籍が発行されたりして、この「青い目の人形」のことが何度かクローズアップされてきました。しかし、一時的なブームとなることはあっても、人々の記憶からは忘れ去られた存在となりつつあります。

現在でも、ギューリック3世（1世の孫）が中心となって「新・青い目の人形」を贈る活動を続けたり、武田英子さんも調査活動を続けられています。また、1997年になって、北海道で新たに発見されたという情報もありましたが、かつての木造校舎が鉄筋コンクリートに改築され尽くしている現在、新たな人形の発見は望めないようです。「青い目の人形」は「平和」を考える意味でも貴重な資料であり、その数奇な運命と歴史的事実を、全国のより多くの小学生に

伝えることができればと思っています。

2、本校にも、人形ブロッソンが

相手校を見つけた経緯

「青い目の人形」の中の1体「ブロッソン」が、かつて横浜市立本町小学校にもありました。しかし、1995年にブロッソンのことを知る児童はもちろん、教師もほとんどなく、校長室前に飾られた写真だけが、その存在を示していました。



「青い目の人形」が、21世紀の平和教育で蘇る

1995年夏。課外活動の「特別インターネットクラブ」が、各地の小学校の様子を見ていたとき、大津市立平野小学校のホームページが目にとまりました。そこには青い目の人形が学校に里帰りしている情報が載せられていました。280体の中の2体がインターネットで結びついたので。しかし……本町小学校のブロッソンは今どこに……。

調べてみると、ブロッソンは「横浜人形の家」の旧舎ができた16年前に預けられ、以来一度も本町小学校には戻ってきていないことが分かりました。本物のブロッソンを見てみたいというインターネットクラブの子どもたちの願いをかなえるために、1996年3月、「横浜人形の家」の方が16年ぶりに、ブロッソンの里帰りを実現してくれました。本町小学校では児童会が中心となって歓迎会を行いました。

1996年7月11日。「横浜人形の家」で「青い目の人形の集い」が行われ、本町小学校からはインターネットクラブと代表委員会の児童が参加しました。そこには、ブロッソンを含む横浜市

内に現存する4体の「青い目の人形」全てが揃っていました。そして、答礼人形「ミス横浜・濱子」の姿もありました。また、その場でブロッソンのレプリカを受け取り、本町小学校に持ち帰りました。この日、学校に残った全校児童も「青い目の人形の時間」として、ビデオ視聴をし、ブロッソンについての話を聞きました。

それから3日後。インターネットに関する説明会で、一つの出会いがありました。愛知県から来訪していた校長先生が、「私のところにも人形があるので資料を送ります。インターネットはまだ慣れないので郵便で送りますよ」と。届いた資料は、昨年、愛知県で9体が揃ったことを伝えていました。また、その学校では、アメリカの小学校とホームステイを含めた、国際交流活動をしていることも伝えていました。

3か月後。今度は埼玉県大沢小学校から電子メールが届きました。「青い目の人形ワーテラ」のホームページができたので、相互にリンクを張りましょうというものでした。この「ワーテラ」こそ、7月11日に本町小学校全校が視聴したビデオのモデル人形でした。

こうした他校からの情報も受けて、6年生社会科学習の中に、「青い目の人形」を取り入れようという計画が進められ、「青い目の人形ブロッソンが見た戦争」というテーマで、戦争時代の様子を考えていく学習が進められました。

3、13体がインターネットで結合

1997年1月。年明け早々に、うれしい電子メールが相次いで届きました。愛媛県の神山小学校と富山県の鷹栖小学校から、「青い目の人形ページ」ができたので相互にリンクを張りましょうという連絡でした。これで、インターネット上でホームページを持つ5校に、電子メールで連絡の取れる田峯小学校も加えて、6校のリンク網ができました。まだ280分の6でしかありませんが、この6校が中心となって各地域の情報を集約して、情報交換していくことを考え始めました。

2月上旬。3年生の社会科学習「昔探し」に関連して、「卒業生メーリングリスト」が活動を

始めました。卒業生に昔のことを聞いてみようという活動です。その中の一人から「横浜港や本町小でロケを行った、青い目の人形映画があるはずだ」という電子メールが届けられました。調べてみたところ、1982年、東映映画教育部製作16ミリ『青い目の人形』でした。しかし……、当時、32万円のこの映画を買うことも、借りることもできず、残念な思いをしました。

その後も少しずつではありますが、全国各地から、「青い目の人形ページを立ち上げました」「こちらの学校には、新・青い目の人形があります」といった連絡を受け取っています。そのような中でリンク網やメーリングリストを作れないかという話に発展し、「青い目の人形」リンク網を作成するに至りました。1998年8月の段階では、13体の「青い目の人形」がインターネットで結ばれています。まだ280分の13でしかありません

が、少しずつ着実に増えています。これからインターネットの普及とともに、さらに発展するよう、活動を続けていきたいと思っています。

国内交流に向けて

全国の「青い目の人形」情報を交換したり、合同イベントを実施したりする際の連絡用として、メーリングリストを立ち上げています。

〈メーリングリストの名称〉

「青い目の人形」メーリングリスト
blue-eye@edu.ipa.go.jp

〈メーリングリストの目的〉

- ・「青い目の人形」を通した「平和教育」「国際交流」
- ・「青い目の人形」ページ掲載校及び関心を持つ参加者の情報交換
- ・各地の「青い目の人形」情報の集約公開
- ・全国同時イベント(3月3日)の呼びかけ

〈「青い目の人形」情報掲載校へのリンク〉



神奈川県横浜市立本町小学校
「ブロッソソ」



北海道八雲町立八雲小学校



埼玉県越谷市立大沢小学校
「ワテラ・ヘズ」



滋賀県大津市立平野小学校



長野県長野市立綿内小学校



青森県南郷村歴史民俗資料館
「メリー」



高知大学資料
「エミリー」&「ミス高知」

羽黒町史の中の記述



愛知県設楽町立田峯小学校
「グレース」
電子メールで連絡が取れる。



山形県平田町立南平田小学校
「ロサリー」



富山県砺波市立鷹栖小学校
「メリー」



愛媛県八幡浜市立神山小学校
「ベティー・ジーン」



徳島県神山町立神領小学校
「アリス」



広島県福山市立金江小学校
新・青い目の人形「コーラ」



カリフォルニア・バークレー発信
「ミス香川」

メーリングリストへの提案

- ・全国約280体の「青い目の人形」保存校の横の連絡をとる組織機能
- ・インターネットを通じて、アメリカ側人形保存あるいは提供校との交流
- ・「横浜人形の家」からの「青い目の人形」関係公開情報を随時転載

4、愛知県・田峯小学校の国際交流

(1)「青い目の人形」を囲む平和教育実践

1997年3月3日。横浜市立本町小学校では、前年の、「青い目の人形ブロッソン」里帰り集会に引き続き、ひな祭りの日に全校集会を開きました。そのときに6年生からインターネットを通じて発信されたメッセージが次のものです。



わたしたちはこの友情人形を大切にしなければいけないと思います。アメリカの子どもたちが心をこめて贈ってくれたものだからです。今日はひな祭りです。70年前のように大きな式典はできないけれど、せめてクラスで「青い目の人形の歌」や「ひな祭りの歌」などを歌ってみてください。

70年前のように青い目の人形と一緒にひな祭りを祝いたいとは思いませんか？

私たちの学校では祝いたいと思っています。みなさんの学校でも祝ってみてはどうですか。

こうした子どもたちの声を受けて、全国で3月3日に「青い目の人形の時間」を持つことができないだろうかと考えています。

1998年の段階では、インターネット上で連絡の取れる人形保存施設は13体しかありませんから、全国規模というわけにはいきませんでした。いくつかの施設で3月3日前後の活動をインターネット上で公開しています。

また、国内交流による平和教育の可能性を探るものとして、テレビ会議システムを用いた「青い目の人形」交流を行っています。双方の「青い目の人形」をテレビ会議システムで紹介

し合うことで、全国に広がる平和教育を実感することができています。

(2)国際交流の実際

1998年現在、アメリカと日本とでインターネットを活用して定期的に交流するには至っていません。「青い目の人形」が、アメリカのどこの町から贈られたものであるか、特定できるものが少ないことと、日本のインターネット普及が遅れていることが大きな原因です。そのような中で、素晴らしい国際交流を行っているところがあるので紹介します。

愛知県設楽町立田峯小学校には「青い目の人形グレース」があり、この人形を1927年に贈ってくれたアメリカ側の学校も分かりました。そこで、数年前から郵便や電話を使った交流を進め、ついに地域の協力を得て、相互にホームステイを行うまでになり、友好関係を深めています。

香川県では、地元の保存会やプロバイダーが協力して、アメリカに答礼人形として贈られた「ミス香川」の里帰りを実現させました。この「ミス香川里帰り歓迎式典」の様子は、インターネットでライブ中継が行われました。

5、テーマをはっきりさせること

(1)教師から見た成果と課題

国際交流という点では、本町小学校としては、まだ何も行えていないのが現状です。しかし、1996年には2校であった国内リンク網が13校にまで増え、メーリングリストで連絡が取り合えるようになったことや、その発展としてテレビ会議システムを活用した交流を行うことができたことは、国際交流への大きな一歩であると考えています。

また、社会科や道徳の授業の中で「青い目の人形」を取り上げる学校が増えたこと、「横浜人形の家」と連絡を取り情報交換ができたこと、各地で「青い目の人形」の所在を確認する活動が広がっていることなど、大きな成果をあげています。

初めにも述べた通り、この「青い目の人形」交流は、数年がかりのプロジェクトがスタート

したところでもあります。いや、1927年から70年以上続いているプロジェクトがインターネットと結びつこうとしているところともいえるかもしれません。

5年後の2003年に全ての学校がインターネット接続されたとき、280余体の「青い目の人形」がインターネット上で集まり、アメリカとのインターネット交流が軌道に乗っていることを夢見て、これからも活動を継続していきたいと思っています。

(2) インターネット国際交流へのアドバイス

まだ国際交流が成立していない段階でアドバイスするのも難しいのですが、国際交流で何を行うのかというテーマをはっきりさせることが大切だと思っています。もちろん、異文化理解や国際理解というテーマもありますが、国際交流で「平和教育」が、この「青い目の人形交流」のテーマです。

交流を継続させるためには異文化理解・国際理解以外のテーマが必要なのではないでしょう

か。そして、共通テーマを持つ学校と交流すれば、きっと長続きすることでしょう。そのよい例が前述の田峯小学校です。アメリカ側小学校との交流が数年間続いています。「青い目の人形」という共通テーマがあるからです。他校はまだ国際交流には至っていませんが、相手校が見つければすぐに素晴らしい国際交流が成立することでしょう。

最後に、私は10年ほど前にパソコン通信で国際交流を行ったことがありましたが、1年間で挫折してしまいました。「テーマ」の問題に加えて、「外部支援体制」がしっかりできていなかったからでした。

国際交流は、一人の教師が行うのではなく、学校や地域、そして、国内交流校も含めて行うことが必要だと、そのとき実感しました。

そうした思いも込めて、現在、「青い目の人形リンク網」の整備を進めています。いつの日か、日本とアメリカの複数校同士での交流が実現する日を夢見て。

参考資料

●本町小学校のプロフィール

- ・ 14学級 児童数約440人
- ・ 1994年から100校プロジェクト対象校
- ・ 90台のコンピュータをオープンスペースに分散配置し、教師も児童も、授業でも課外でも、いつでも自由にコンピュータやインターネットに触れられるようにしている。全教員がコンピュータを所有し、ネットワーク化された学校データを扱っている。ホームページ作成など、インターネット技術も研修会などを通して全教員が身に付けている。また、ネットワーク管理を行える教員が2名いる。
- ・ 1985年のコンピュータ導入以後、教育利用に取り組み続け、1993年理科、1995年社会科の全国大会で、その利用法を全国に発信している。
- ・ 今年度は、マルチメディアプロジェクト学習と題し、全学年でコンピュータを活用した総合的学習に取り組んでいる。

●ネットワーク環境

- ・ 64K専用線接続25台、ins64ダイヤルアップ接続15台、すべて校内イントラネットで接続

●学校名・実践者、ホームページURLと電子メールのアドレス

- ・ 神奈川県横浜市立本町小学校 教諭 出口和生
<http://www.honcho-es.city.yokohama.jp/>
honchoes@city.yokohama.jp